

杉野一博 選

身辺に一壺の酒と春の月

なかなか情緒的、春の月がやわらかく包む

伊東次雄

日勝の「半分の馬」春の土

よく取り上げられるが春の土が効果的

木宮節子

春の雨屋久様置久鹿それぞれに

猿鹿それぞれにと他を省略したのがいい

森山圭悦

暮遅し啄木は影探しつつ

自分の影を啄木は探しているのではと思ったが

杉野一博

あたたかし掃除ロボット「ルンバ君」

新しい素材をさらりと取上げた

木宮節子

紀元杉濡れた椿が落らている

大きな古代のものと現在の落花の取り合わせがいい

森山圭悦

春一番甲乙丙丁級替

懐かしさを具体的に書き取ったのがいい

山本俊郎

ぶらんこを下り帆柱の下に行く

ぶらんこを漕いだ余韻

杉野一博

園丁の作業狂はす春吹雪

どうも理屈っぽくなったようだ

松原智津子

潮の日や宙にあめますさくらます

潮の目からの想像のひろがり具体化された

山本俊郎

戦没の画学生展はだれ零り

斑雪に作者の感情が反映する

上澤孝二

剪定の枝くべるたび林檎の香

下五の匂いが伝わってくる

松原智津子

修司忌や寺町下ル洋菓子店

取合せの妙 寺町と洋菓子の面白さ

上澤孝二

黒土に浸む清明の水白ふ

きれいな春先の自然の動き

松原智津子

雁風呂や月の海峡ふくらんで

抒情が広がりのあるイメージになった

上澤孝二

春暁や少年だれも星を持つ

春暁がいいと思う 春の夜などでは平凡

伊東次雄

界限の音がみだす露の臺

春先の街の動きがさるよう

杉野一博

貝に乗る女身の髪や春一番

画のなかのものか、春一番 都の取り合わせ効果的

船矢美雪

惜別の言葉短し春の雪

春の雪で包んだのがいい

伊東次雄

春の雪遺跡の路地を行くバイク

遺跡を歌いあげるのではなく場景をしっかり把握した

船矢美雪

アライムの乗る午後三時チェウーリップ

アライム乗るがどうもわかりにくい

船矢美雪

一山の昂る鼓動春立てり

昂るとまで言わなくてもへ晴れゆく鼓動 など

伊東次雄

春光や卒寿の赤き抽象画

春光がそこに映える

木宮節子

千尋の滝流木売る人春が行く

素材省略へ流木の上春が行く

森山圭悦

春うららおくのほそみらいオン像

中七をもっと具体化した方がいいのでは

山本俊郎